診療部　健診センター

健診センター長　　志田　勝義
日本人間ドック学会　指導医・専門医、人間ドック健診情報管理指導士

1　2022 年度総括
2022 年度の総稼働件数は 4,948 件で前年比 100 件の増加がみられます。
内訳は、半日ドック 3,474 件、脳ドック 151 件、一般健診 791 件、生活習慣病健診 532 件です。
総稼働件数の増加の原因は、一般健診は減少しましたが半日ドック、脳ドック、生活習慣病健診の増加が減少数を上回ったことによります。これは年度を通して業務停止期間がなかったことが要因と思われます。

2　人員

脳神経外科/院長	星　誠一郎
健診センター/センター長	志田　勝義
脳神経外科	西山　裕孝

3　ドック健診実績
精密検査指示件数は、上部消化管内視鏡検査 87/2,825 件(3.1%)、上部消化管 X 線造影検査 126/829 件(15.3%)、心電図 212/4,015 件(5.3%)、胸部 X 線検査 252/4,006 件(6.3%)、胸部 CT 検査 2/121 件(1.7%)、腹部超音波検査 119/3,543 件(3.4%)、マンモグラフィー26/429 件(6.1%)、乳腺超音波検査 25/794 件(3.1%)、子宮頸部細胞診 12/711 件(1.7%)です。
追跡しえた精密検査の結果での癌診断件数は、乳癌 4 件、胃癌 3 件、大腸癌 3 件、肺癌 2 件、膀胱癌 1 件、前立腺癌 1 件、悪性中皮腫 1 件、喉頭蓋癌 1 件となりました。

諸検査数動向をみますと、半日ドックの件数の増加に伴い各検査件数も増加しております。上部消化管内視鏡検査及び上部消化管 X 線造影検査も増加はしていますが、昨年度ほどではありませんでした。これは半日ドックの稼働率がほぼ 90%となっており、当院のキャパシティーの上限に近づいているためと思われます。
昨年に引き続く形となっておりますが、当院の上部消化管 X 線造影検査における精密検査指示率は 15%台となりました。これは日本人間ドック学会が推奨している 15%未満を超える結果となっています。この理由は、学会の判定基準では慢性胃炎は C 判定となりますが、当院では粘膜萎縮の存在が明らかに疑われる慢性胃炎(萎縮性胃炎)に関しては、内視鏡による画像診断の必要性およびピロリ菌感染リスクを鑑みて精密検査指示とさせていただいているためと思われます。
当院の精密検査指示率が学会の推奨基準を超えているということに関しては、2020 年に人間ドック健診施設機能評価受診の際に、医師サーベイヤーの先生との面談にて理由と意図を十分に説明させていただいて、ご了承をいただいております。
引き続き当院といたしましては、将来的に胃癌発症リスクが高いと思われる症例を積極的に内視鏡検査に誘導していくことにより、胃癌撲滅へ寄与していきたいと思います。

2022 年度の追跡しえた精密検査の結果での癌診断例では胃癌症例が 3 件ありましたが、早期発見のため全症例にて内視鏡的粘膜切開剥離術(ESD)を施行し開腹手術を追加することなく治療を終了しております。
当院では治療まで完結できない領域の癌腫症例におきましても、後日受診時の当院での精査にて確定診断が得られ、速やかなる紹介の後に適切な治療をお受けいただいたという報告をいただいております。このことは以前より当院健診センターの基本方針とさせていただいております「健診センターの使命である早期発見にとどまることなく早期治療にまでつなげてこそ二次予防機関の役割である」ということが実践できているものと考えております。今後も継続して取り組んで行きたいと思います。
また、当院では診療該当科のない癌腫症例におきましても、他医療機関受診の後に適切な治療をお受けいただいたと報告を受けております。ご協力いただきました近隣の医療機関の皆様に御礼を申し上げます。

4　2023 年度の方針

昨年度の方針として、当院ドック受診後の精査未受診率の減少を目的とした既存のフォローアップ体制の改善と新たなるフォローアップ体制の確立を上げさせていただきました。その過程として、昨年 11 月に電子カルテの更新を達成することができました。現在は当院の健診室機能に即した体制を構築すべく検討を重ねている最中であります。引き続き、新しいフォローアップ体制の確立を目指してまいります。
新型コロナウイルス感染症も第 5 類扱いとなり、国民全体としても危機感が薄らいでいるのではないかと感じられる昨今ですが、当院健診センターは、引き続き、徹底した感染予防策を行いながら、今後も受診者の皆様に健康で、且つ実りある人生を提供するために、職員一同努力していく所存です。